

10 予定が変わったよ

○予定が急に変更になると、とまどってしまう子どもがいます。



【順序の絵表示】

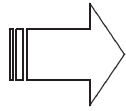


担任のコメント

太鼓をたたくことが大好きな子どもに、合奏の順序の変更を予告なしに伝えると不安な様子でした。

そこで、目の前で合奏の流れを描いて見せたところ、納得して合奏に参加できました。





たとえ急なことであってもいきなり言わない

- ◇ 普段通りの状況や手順が急に変わると混乱してしまう子どもがいます。

特に学校行事や普段の生活パターンにないような検診、避難訓練があると、混乱してしまったり、次の日から園や学校を休んでしまったりする場合があります。

こんなとき

- ・ 予定が変更になったときにはあらかじめ伝える、予告をする、また予定が変わることもあるということも伝えます。
- ・ スケジュールを視覚的に絵カードなどで示して、それを入れ替えるという対応にすると受け入れやすい場合もあります。



11 手洗い1・2・3

○手洗いの順序を絵で示しましょう。



【手の洗い方の順序を示す図（よこ・たて）】

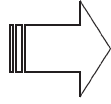


担任のコメント

何番までできたかに気付かせると、見通しをもち、手を洗うことができるようになりました。

洗い方の流れが分かりやすいよう表示を上から下に変えました。



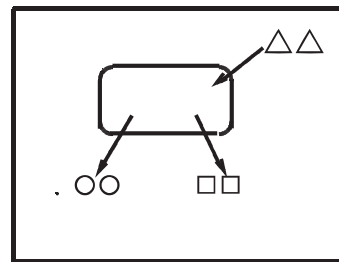


順番の示し方

◇ 活動の順番を視覚支援すると子どもは理解しやすいのですが、順番の示し方が大切です。

- ① 活動の名前を付ける。
- ② 活動の一つ一つに番号を付ける。
- ③ 矢印などで次の活動はどれか示す。
- ④ 文字と一緒に写真や絵などで具体的に示す

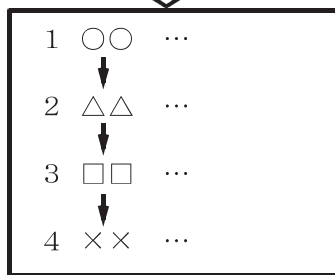
全体を見渡すような表示は理解しにくいので、順番がよく分かるようにする配慮が必要です。



始点
どこから見るのか

終点
どこで終わるのか

を分かりやすく！



12 手洗いワンプッシュ

○ハンドソープのポンプを何回も押してしまう子どもがいます。



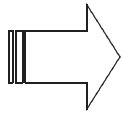
【シールを貼ったハンドソープ】



担任のコメント

ポンプの数字を見てたくさん押してしまうことがなくなりました。





具体的な表現にする

- ◇ ハンドソープを何回押すかは、その人がそれぞれ自由に決めてよいのですが、迷ってしまったり、適切な回数を押せない子どももいます。
- ・ あいまいな表現では理解できなくても、具体的に回数やルールを示してあげると行動しやすくなります。
- ・ 子どもは、ポンプをいたずらに押したくなるときもありますが、回数が表示してあると、いたずらも少なくなるのが期待できます。
- ・ 容器に1回分程度を入れておくという方法が分かりやすい場合もあります。



13 ごちそうさまの時間は？

○昼食を食べ終わる時間を絵とテープで表示をしました。

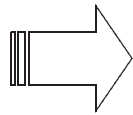


【終わりの時間を示した掛け時計】



担任のコメント

昼食をはやく食べることがよいと思い、急いで食べるので、この時間までに食べ終わればいいことを絵で示し、ゆっくり食べることを意識づけました。



時間の管理

- ◇ 「他の子どもに合わせる」とか、「あせる」ことがないので、極端にはやくしてしまったり、ていねいにしてしまったりするため、時間がかかりすぎる場合があります。
- ・ 場面の切り替えや気持ちの切り替えが難しいので、時間がかかる場合も多いのです。
- ・ 時間の管理をさせる、スピードアップさせる工夫（タイマーの使用に慣れる、スケジュール表を利用させる、いつも時計が見える場所に座るなど。）が必要です。
- ・ ゆっくりする、または急がなければいけない理由も学習させてから、子どもと一緒に取り組みましょう。



【タイムタイマー】 Time Timer LLC

14 ひも結びにチャレンジ

お弁当のナプキン、エプロンのひも、帽子のひも

- 完成したものや、作業の手順や様子が分かるビデオなどを見せて、見通しを立てられるようにしましょう。
- となりで一緒にしながら、細かく具体的に説明しましょう。



【ひも結び練習用具】



担任のコメント

子どもの好きな色のひもを使い、練習用具を作りました。

となりで一緒にしたり、おうちでも同じ物を使って練習しました。

ひも結びができるようになり、いろいろな物を結ぶ楽しさが出てきたようです。



15 がんばり表

- 得意な活動から始め、次に苦手なものに移っていくようにしてみました。
- がんばり表など、活動に取り組む励みとなるようなものを工夫しました。取り組めたときにはシールを貼り、励ますようにしました。



【がんばり表】



担任のコメント

苦手な活動に取り組むために、1日1回取り組むことができたときにはシールを貼るようにしました。シールがいっぱいになっていくカードを見て、少しずつ意欲が出てきました。



16 じょうずに座れたよ

○いすからすぐに立ったり、いすのはしにちょこっとおしりを乗せたりと、上手な座り方を知らない子どもがいます。



【座り方のよい例とよくない例の絵】



担任のコメント

朝の会や帰りの会で、座り方のよい例・よくない例を絵で示し、意識させることで、姿勢がよくなりました。



モデルを示す

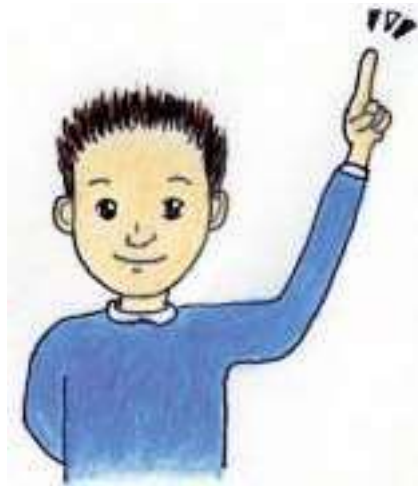
◇ 「ちゃんと~しましょう。」「しっかり~しましょう。」
などという先生の言葉をよく聞きます。

そのときは「ちゃんと」や「しっかり」ってどういう
意味か分からないけれど「はい」と返事をしている子
どもがいます。

だから、動けなかったり、間違ったりするのです。

分かりやすい言葉でその内容をていねいに説明すると
ともにモデルを示すことで、より理解が深まります。





1 先生へのお願い

1 先生へのお願い

まずは支援ありき



- 診断は「育て方」のせいではないこと、支援の継続性が必要であることを示したり、大まかな方向性を決めるためのもの
- 個々の子どもや教師、親の困難さに対して、個別的な配慮や工夫を行うこと
- 診断がないと支援ができないというのはウソ、緻密な行動観察から実態を分析し、支援を行う
- 診断につなげられるような支援や信頼関係を築く

保護者との関係づくり



- 自分の価値観を押しつけない
- 説教しない
- 勝手に診断しない
- 自分の「思い」を言う前に親の「思い」をよく聞く
- 子どもに関する共通理解
- 意見が異なる場合、その背景要因を考える
- 親の意見を取り入れ、ともに考えていく姿勢
- 子どものよりよい教育のために、互いの知恵や考えを出せる関係づくり
- 専門機関へのつなぎを考える

教師間連携



- ・一人で抱え込まない
- ・校(園)内支援チームを立ち上げ、学校(園)全体として取り組む体制をつくる
- ・短くても(5分でも)定期的なミーティングや全体研修会をもつ
- ・守秘義務の遵守に対する徹底を図る
- ・保育園・幼稚園、小中学校間の連携
- ・管理職、教育委員会、専門機関、スクールカウンセラーや巡回相談、校医との連携

学校(園)行事や交流への環境設定



- ・個別の配慮事項について情報収集(親・前担任など)
- ・感覚過敏、こだわり、注意集中困難への配慮
- ・事前に分かりやすく流れを伝える
(視覚化など: ビデオや写真、スケジュール)
- ・徐々に参加時間を増やす
- ・集団の中で少しずつ成功体験を積み上げる
- ・教師間の目標の共有
- ・仲間の理解と応援

しかるだけでは子どもは変わらない



- ・ 欠点を注意すれば、子どもはそれを直してくれるという幻想を捨てること
- ・ 本人だけが普通に努力しても修正されない、対人関係のできにくさ、多動、忘れ物などがあることを認め、個別の工夫や配慮のある教育を
- ・ 連続欠席、いじめの兆候には素早く対応する

つきあい方のコツ



- ・ 子どもの好みを知る
- ・ 子どもの話を聞く
- ・ 子どもの得意なことを一緒にする
- ・ 苦手なことは少しずつ入れる
- ・ ペースにあわせて休憩や別の活動を入れる
- ・ 約束を守る
- ・ 前もって準備をきちんとする
- ・ できたことをうまくほめる
- ・ 教師自らがコミュニケーションを楽しむ

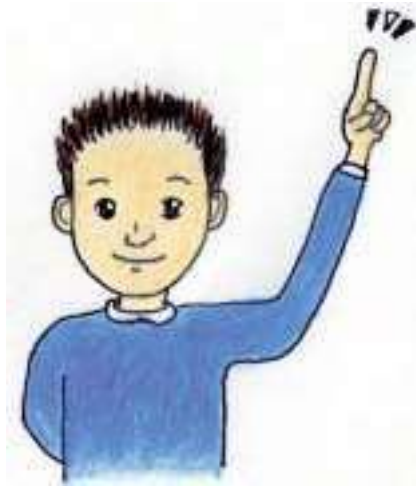
対応のポイント



- 分かりやすい物理的環境条件・人的環境条件を整える
- 視覚的に伝える
- 具体的に伝える
- 変更は前もって伝える
- 問題行動以外をほめる
- 間違いを修正するよりは適切な援助で成功体験をさせる
- スモールステップで導入し、ほめることで自信を付ける
- 乗り越えられない課題で失敗させないように、ハードルを下げクリア
- 社会的スキルやセルフコントロールを教える
- 余暇スキルを教える



まずは大人が理解することからはじまる



2 システムづくりの第一歩

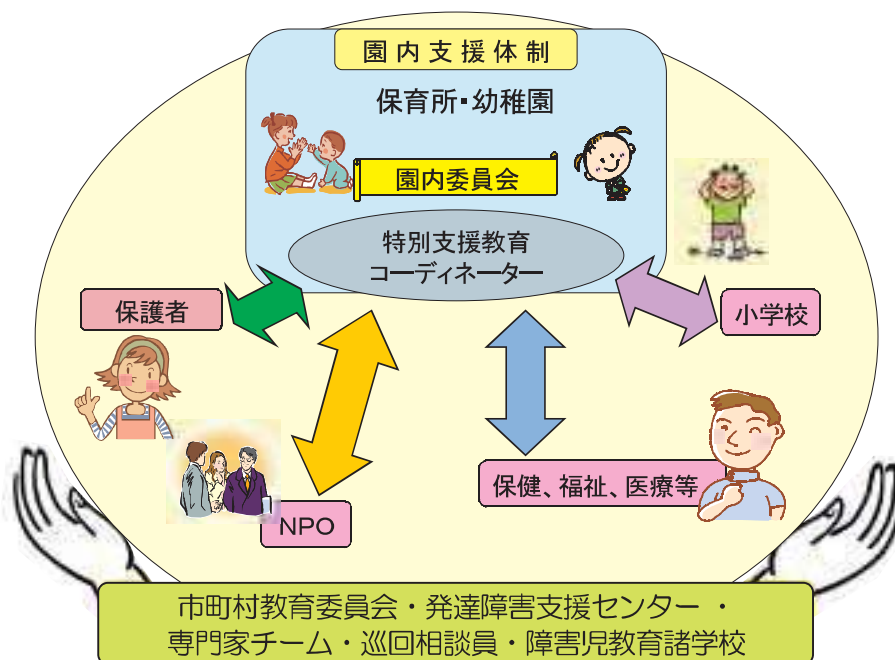
2 システムづくりの第一歩

「園内支援体制」は どうつくればいいのか？

特別支援教育コーディネーターを中心に、園内委員会を開いて支援体制を整えましょう。

特別支援教育コーディネーターの役割

- 園内委員会のための情報収集
- 担任への支援（個別の指導計画作成支援）
- 園内研修の企画、運営
- 保健センターや療育教室など関係諸機関との連携窓口
- 保護者の相談窓口



「個別の指導計画」は どう作成すればいいのですか？

- 特別支援教育コーディネーターを中心として、教育的支援を必要とする幼児について園内委員会を開き、検討する。



実態調べ記入例（表1）

- 特に「個別の指導計画」の作成が必要な幼児について、担任が主に作成する。



個別の指導計画記入例（表2）

- 「個別の指導計画」を園内委員会で検討し、共通理解する。



- 目標を設定し、日々の活動における支援や配慮事項をあげる。



- 日々の記録をつけ、評価をする。
- 保護者とともに学期ごとの評価をし、「個別の指導計画」を見直す。



幼児の指導と評価の記録例（表3）

- 3学期のまとめをして次年度へ引き継ぐ目標、変更する目標など検討をし、来年度の方針を決める。

平成*年度 個別の指導計画 < 実態調べ > (表1)

クラス ふりがな 幼児名	年保育 組 A	担任
生年月日	平成 年 月 日 (歳)	
入園前の様子	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
障害の状況 既往症等 発達検査の記録	広汎性発達障害 (a 小児科医師 b 先生)	
項目	実 態 (年度当初)	
生活面 ・食事、排泄、着脱 ・安全、清潔 ・物の片付け ・お手伝い等 ・次の活動への見通し	<input type="checkbox"/> 身辺自立はできている。衣服の着脱などもできるが、次にすることが気になり雑になってしまう。 <input type="checkbox"/> 食事面では、牛乳が苦手であるが残さず飲もうとする。給食では三角食べができず、一つのを食べ終えてからでない次のを食べようとする。握り箸で、小指を使って箸を動かし挟む。食器は器の縁を上から握る。 <input type="checkbox"/> 当番活動は、意欲的に行い、給食当番やマイク当番を楽しみにしている。個人鉢のプチトマトの世話もかかさず行う。 <input type="checkbox"/> 教員の指示を理解し、行動に移すことができる。	
運動・身体面 ・健康状態 ・全身運動、リズム	<input type="checkbox"/> 年長になって喘息がでる。 <input type="checkbox"/> 運動面は活発で、高所に登ったり自転車に乗ったりするなど、様々な遊びを進んで行う。 <input type="checkbox"/> ずっと同じ姿勢でいることは難しく、体のバランスを取りにくい。	
作業面 ・えがく、つくる ・手指や用具等の操作性、器用さ ・持続性	<input type="checkbox"/> 左利きである。手先はやや不器用な点があるが、はさみを使った作業は自分で行える。しかし、早く仕上げたいという気持ちのせいで、雑になることが多い。作品が完成するまで、最後まで取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> ひもをくぐるなどの細かい作業は、時間がかかるが一人で行える。	
認知・言語面 ・自己決定の力 ・ことば、かず ・物へのかかわり	<input type="checkbox"/> 話を集中して聞くことができない。 <input type="checkbox"/> 思ったことを相手に伝えようとするが自分の思いが強く、相手から聞かれたことに対して適切な返答をすることができない。 <input type="checkbox"/> 興味をもったことに対して、執着心がある。 <input type="checkbox"/> 虫に興味があり、自分で本を見たり観察したりする。	
社会性 コミュニケーション面 ・情緒 ・集団参加 ・興味・関心、遊び ・人へのかかわり	<input type="checkbox"/> 友達に対してのこだわりがあり、「〇くんと一緒にいい。」と思うと、他児が誘いかけても「〇くんと一緒にじゃなきゃいや！」と言ってしまうことがよくある。 <input type="checkbox"/> 自分の思い通りにならないと、人のせいにしてしまうことが多い。遊びの中で物の貸し借りが原因でトラブルになることがある。 <input type="checkbox"/> 話をしたり聞いたりするとき、相手の顔(目)を見ることができない。	
その他 行動の特徴	<input type="checkbox"/> 青色を好み、色を選ぶときはほとんど青色である。	
保護者の願い 家庭の様子	<input type="checkbox"/> 丁寧に衣服の着脱をし、登降園時の準備やロッカーの整理整頓を自分から進んで行えるようになってほしい。 <input type="checkbox"/> 教員の話を聞けるようになってほしい。 <input type="checkbox"/> 教員や友達のアドバイスを受け入れて、友達に譲ったり妥協したりできるようになってほしい。 <input type="checkbox"/> 体を使って戸外遊びをしてほしい。(巧技台、鉄棒、リレー、タイヤ跳びなど) <input type="checkbox"/> 箸、はさみ、鉛筆などの持ち方や使い方を指導してほしい。	

平成*年度 個別の指導計画 <×学期> (表2)

クラス ふりがな 幼児名	年保育 組 A	担任
生年月日	平成 年 月 日 (歳)	

項目	長期目標	短期目標(●重点)	具体的な手だて	学期の様子・評価
生活面	○生活に必要な習慣や態度を身に付け、自分から進んで行く。	●所持品をロッカーの決められた位置に片付ける。 ○タオルをたたみカバンに入れる。 ○箸や食器を正しく持ち使う。	○必要に応じて、その都度、言葉をかける。 ○教員が正しい持ち方を示す。	○一人でできるが、周囲が気になり雑になる。声をかけるが、感情的になり冷静に聞き入れられない。今後も継続して指導する必要がある。 ○たまたまに入れたことを分かっていて、注意されると怒りながらやり直しをする。 ○箸や食器の持ち方はまだ直っていない。
運動・身体面	○体を十分に動かし、苦手なことにも挑戦しようとする。	○歌やリズムに合わせて、楽しんで体を動かす。	○教員も一緒に動いて誘い掛けたり、言葉をかけたりする。	○苦手な活動も一度できると、何度も繰り返して続けるようになる。興味のないリズム遊びは、その場で立ったままでしょうとしなかったが、教員が「一緒にしようよ」「楽しいよ」と声をかけて誘うと、元気に体を動かすようになる。
作業面	○いろいろな用具を使い、落着いて製作に取り組む。 ○結んだりほどいたりする。	●はさみで直線をなぞって切る。 ○のりを端まで塗る。 ○鉛筆を正しく持つ。 ○弁当包みを結んだりほどいたりする。	○線を太く書く。 ○塗り残し箇所を知らせる。 ○その都度、声をかける。 ○必ず確認し、できたときはほめる。	○細かい作業になるとあきらめ、「もうできないよう」と怒り出す。早く仕上げたいという気持ちが先走り、線通りに切れなかったり、のりを付けすぎたりする。声をかけると最初は丁寧に取り組むが、次第に雑になっていく。 ○まだ、鉛筆の正しい持ち方が身に付いていない。 ○一人で結べるが、ほどこうとして逆にかけた結びになってしまうことがある。
認知・言語面	○教員や友達の話の落ち着いて最後まで聞く。	●椅子に座り、最後まで話を聞く。 ○友達や教員の話の話を聞く。	○立ち上がろうとしたとき、座るように肩を押さえたり、声をかけたりする。 ○相手の話を聞くようになかちとなる。	○教員の話の最後まで聞かないで、立ち上がって自分の思いを聞いてもらおうとする。 ○友達との会話は、相手の意見よりも自分の思いを強く主張するのでトラブルになる。
コミュニケーション面	○生活に必要な言葉を使ったり順番を守ったりする。 ○友達とのかかわりを深め、いろいろな活動を十分に楽しむ。	●物を借りるときは「貸して」と言う。 ○順番に並び、順番がくるまで待つ。	○言わないで借りたときは、「なんて言うの」と問いかける。 ○後から来たときの並び位置を知らせ、待つことができたことをほめる。	○6月頃から友達のかかわりが増え、一つの遊びをじっくりと楽しむようになる。それにもない、友達に声をかけずに物を借りるなどのトラブルがある。言う言葉は分かっているが使うことができない。 ○一番になることを意識しすぎ、横入りをしてしまう。教員に注意されると「先生が悪い」と怒るが、待てるようになってきた。
その他				○青色に対するこだわりはあるが、他の色でも「仕方がない」と言って、我慢できるようになる。

家庭の様子	○近所の友達と遊ぶことが多い。 ○食器の持ち方・弁当の包み方の練習に家庭でも取り組む。
-------	--

幼児の指導と評価の記録（表3）

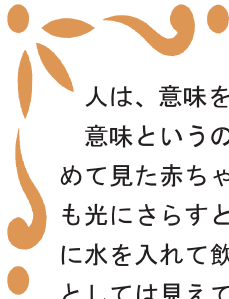
園長印	主任印	幼児名(A)	期 間	評 価
			/ () ~ / ()	/ () ~ / ()
項目	課 題	幼児の姿	評 価	幼児の姿
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○登園時、持ち物をロッカーの決められた位置に片付ける。 ○制服をきれいにたたむ。 ○箸や食器を正しく持ち使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた位置に片付けができる。雑なときは言葉をかける。 ・はっぴのたたみ方を知らせながら、一人でできるように言葉をかける。 ・意識させるように、その都度声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ × 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体測定で、早く測定してもらおうと脱いだ服を雑に椅子の上に置く。教員と一緒にたたみ直す。 ・箸が交差してしまうので、物をつかめない。その都度、指の使い方を知らせる。
運動・身体面	<ul style="list-style-type: none"> ○バランスを取って片足で立つ。(組立て体操のポーズ) ○リレーでは決められたコースを走る。 ○友達と力を合わせて組立て体操をする。 ○体操の動きを正しく行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支える足と挙げる足を離して、10秒間立てるようになる。 ・友達と一緒にするポーズでは自分の役割を頑張っていた。一人でするポーズはふざけることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ・片足で長く立てるようになり、友達や教員に見せる。 ・はとほっほの体操は運動会で何度も練習していたので、動きを止めずに最後までする。
作業面	<ul style="list-style-type: none"> ○はさみで曲線をなぞって切る。 ○のりを伸ばすように塗る。 ○ちょう結びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりを使う活動がなかった。 ・はっぴを着るときに結ぶ腰ひもをちょう結びにできないので、青と白の2色のひもを通した台紙を使って練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一 × 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりを使う活動がなかった。 ・上手に結べないことにいら立ちがあった。何日か続けることで自ら「ちょうちよ結びしよう」と言うようになった。「できない」とつぶやくが教員と一緒に頑張る。
認知・言語面	<ul style="list-style-type: none"> ○椅子に座り、最後まで話を聞く。 ○友達や教員の話聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子に座って話を聞けるようになってきた。しかし、床に体操座りをして話を聞くときは、となりの友達とふざけて聞いていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ 	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子に座って話を聞くことができる。 ・友達や教員が話している途中で、思ったことを言ってしまう。
社会性・コミュニケーション面	<ul style="list-style-type: none"> ○物を借りるときは「かして」と言う。 ○「ありがとう」「ごめんなさい」をきちんと言う。(10/4~) ○教員や友達顔を見て「おはようございます」の挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「○くん、次貸してね。」と声をかけるようになってきた。 ・毎日、顔を見て挨拶をする。担任には自分から進んで挨拶ができるが、他クラスの教員から挨拶をされたときは、無視をしたり相手の顔を見ないで挨拶をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごめんなさい」とは言うが、その場のぎの言葉であったりする。なぜ相手に謝らなければならないのかを本児に分かるように説明し、確認を行うようにする。 ・担任には顔を見て挨拶をするが、他の教員には無視したり顔を合わせなかったりする。
保護者との連絡 家庭での様子				

〈 評価 ×できない △芽生え ○ほぼできる ◎できる 〉

担任印

／ () ~ / ()		／ () ~ / ()		
評価	幼児の姿	評価	幼児の姿	
△ ×	<ul style="list-style-type: none"> 決められた位置に持ち物を片付けることができる。 意識しながら箸や食器を持っているが箸の持ち方は常に言葉かけが必要である。 	◎ △	<ul style="list-style-type: none"> 身支度をしているときに気になることがあり、カバンをロッカーの前においたままだった。本児と登園時にすべきことについて話をすると、翌日から片付けをしてから次の行動に移っていた。 	◎
○ △	<ul style="list-style-type: none"> 運動会后、他のクラスの友達とも色別リレーを楽しむ。早くゴールしたくて、コースの内側を走り友達を抜かしたことを喜ぶ。本児と一緒に走り、声をかけながらコースを知らせたので、コースを外れずに走れるようになる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 決まったコースを走れるようになる。しかし、勝敗が気になり、自分のチームが負けていると、勝っているチームのはちまきと交換して走る。負けていても最後まで自分のチームで頑張り、負けていたら抜かしたらよいことを話し、様子を見る。 	◎
— ×	<ul style="list-style-type: none"> はさみはゆっくりと切るように言葉をかけるときれいに切れるが、一人でさせると急いで切るので、雑になる。 言葉をかけるだけでちよう結びができるようになる。がんばり表にシールを貼りたくて毎日練習をする。 	△ ○	<ul style="list-style-type: none"> のりを隅々まで塗っていないので、塗り残しのないように言葉をかける。 一人でちよう結びができるようになる。 	○ ◎
○ △	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に座って話を聞くことができる。 友達や教員が話している途中で、思ったことを言ってしまう。最後まで聞いてから言うように言葉をかける。 	◎ △	<ul style="list-style-type: none"> 椅子に座って話を聞くことができる。 最後まで話を聞いてから言うように言葉をかけたことで、話を聞いた後に自分の意見を言うようになってきた。 	◎ ○
△ △	<ul style="list-style-type: none"> 教員や友達に何かしてもらっても「ありがとう」という言葉が出ない。その都度言うように促しながら、どのようときに使うのかを知らせる。 「○○先生にも挨拶してね。」と言うとそのときは目を見て挨拶をする。廊下等で出会ったときは挨拶をされても、挨拶のみで目を合わせることはできない。 	△ △	<ul style="list-style-type: none"> 注意されることがあると「ごめんなさい」と言う。「ありがとう」は言えるときと言えないときがあるので、その都度言葉をかける。 教員や友達と挨拶や話をするときも視線をそらすことがなくなってきた。かかわりが少ない相手とは難しい場合もあるが、自然と目が合うようになってきた。 	○ ○
		<ul style="list-style-type: none"> がんばり表をつくったことでできないことにも楽しく取り組んでいる様子を伝えると、家庭でも成長が見えて分かるので嬉しい。 		

ありのままを生きる



人は、意味を充満させた世界に生きています。

意味というのは、そのものに対する振る舞い方だと思ってください。鉛筆を初めて見た赤ちゃんにとっては、鉛筆はただの棒です。あるいは、コップについても光にさらすとキラキラするというような物理的な特性は目で見えますが、そこに水を入れて飲むものだという事は分かりません。生理的な感覚を味わうものとしては見えていても、そのものの意味は見えないということからスタートしています。そこから大人のようにすべてのものに意味を張り巡らして生きる。だからこそ安心して生きることができるのです。

人は、このように意味の世界に生きています。では、自閉症の子どもはどんな世界に生きているのでしょうか。

自閉症の子どもがあるものにこだわるというとき、こだわったものには、少なくとも本人なりの意味付けがなされている。「そんなことにこだわっているから世界が広がらないんだ。」という形で周りの大人たちが強引にそこから引き離して、「こちらの方でもっといいことがあるから。」と善意で引き寄せたとして、子どもの側から考えたときにどういうことになるのか。そこでパニックを起こすことはやむを得ない。そのことを理解しないで強引に「こちらの世界が本当の世界だ。そっちはやめて、こっちに来なさい。」とやっているかもしれない。そういう目で見てほしいなあと思います。

こだわっているというのは、少なくともその子どもにとってはそこに本人なりの意味があるからです。つまり、安心してその振る舞い方が分かっているものと考えることができる。逆に言うと、私たちにとっては意味があると思っていることが、子どもにとってはそう見えていないかもしれません。ものの意味が見えないところに生きているというのは実に不気味な怖い世界です。

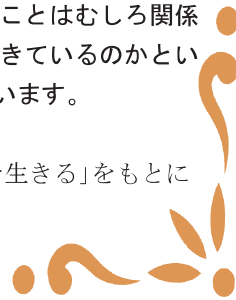
人はみな同じ地球上のこの世界を生きていて、お互いにかかわって生きています。しかし、自閉症の子どもたちも私たちと全く同じ見方をしているかのように思い込んでかかわるということは、実はその子どもたちを理解していないということになってしまう。

自閉症の子どもは相手の視点に立ってみるということが非常に苦手です。逆に

私たちは自閉症の子どもの視点に立って、その子どもたちがどう生きているのかを考えることが少なくともできます。そういった努力をすることでお互いの関係を楽にしてほしい。大切なことは、その子どもたちをこちらの世界に強引に引き寄せようとするのではなくて、お互い歩み寄り、折り合いを付けながら生きることだと思っています。

ありのままを生きるということは、非常に難しいことです。自分たちの世界に引きずり込んだ方が楽そうに見えるんですけども、実はそのことはむしろ関係を悪くすることになる。そのためにも彼らがどういう世界を生きているのかということ、それを彼らの側の視点から見る努力をぜひやってほしいと思います。

2006. 6. 12開放講座浜田寿美男「ありのままを生きる」をもとに



お わ り に

この本を手にしてくださったことに対して、まずお礼を申し上げます。
障害の種別や、障害の有無にかかわらず、ユニバーサル・デザインを基盤にして、幼稚園・保育所等に通うすべての幼児が笑顔で楽しく暮らし、保護者を含む保育者が安心して子育てをし、地域全体が見守り育てられることを目標にして、できる限り「分かりやすさ」にこだわりました。

本書は、保育に携わる先生方だけでなく、保護者や地域の方々、そして保育の先にある学校教育の場面においてもヒントになると思いますので、ぜひご一読いただき、ご示唆いただければ幸いです。

今後もさらなる研鑽を積み、奈良県における特別支援教育の充実に努めてまいります。

監修

井上 雅彦（兵庫教育大学 発達心理臨床研究センター 助教授）

執筆者一覧（所属・職名は平成18年3月現在）

井上 雅彦

桜井 直子（磯城郡田原本町立田原本幼稚園 教諭）

杉岡 榮子（広陵町立真美ヶ丘第二小学校附属幼稚園 教諭）

後藤 晴子（香芝市立下田幼稚園 教諭）

特別寄稿

浜田寿美男（奈良女子大学 教授）

特別支援教育ガイド1
新しい学びの創造～幼児編～

平成18年3月 印刷・発行

編 集 奈良県立教育研究所

発 行 奈良県立教育研究所
〒636-0343 奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1
TEL. 0744-33-8900 FAX. 0744-33-8909
URL <http://www.nara-c.ed.jp/>

